

# 飛び出せ 創造力！ ——ありのままだからいい

第13回滋賀県施設合同企画展 ing...～障害のある人の進行形～



前期 2016.12.3(土)→2017.1.9(月・祝)  
後期 2017.1.13(金)→2.12(日)

植松達「カエル」(前期)

- 滋賀県内 24 か所の福祉施設と 3 つの特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師と、NO-MAが合同で企画・展示
- 35 人の日々の中から生まれるアートを、二期にわたりじっくりご覧いただける展覧会  
(前期出展作品数：281点)

- 会期中に出展者の制作を追体験するようなワークショップ開催！

※関連イベント欄[5]をご参照ください。

※ 記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に招待券をお渡しできます。

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第13回滋賀県施設合同企画展事務局

(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)



広報担当/山田、渡邊

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp http://www.no-ma.jp

企画趣旨	<p>本展は、滋賀県内の障害のある人たちが作った作品を、滋賀県内24か所の福祉施設と3つの特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、企画・展示を行うものです。</p> <p>障害のある人の日々の生活に寄り添う人たちならではの目線で、独自の世界や表現を集めた本展は、35人の作者の作品を2期にわたりご紹介します。</p> <p>ing(進行形)の表現は、“今”だからこそ生まれたものであり、日常の一部でもあります。本展を通して、今、ここにある創作への思いとそのまなざしを体感ください。</p>
展覧会名	第13回滋賀県施設合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～
会期	前期：2016年12月3日(土)～2017年1月9日(月・祝) 後期：2017年1月13日(金)～2月12日(日)
開館時間	11:00～17:00
休館日	月曜日(ただし、祝祭日は開館し、翌日休館)、12月29日(木)～1月4日(水)(年末年始休)、 1月10日(火)～12日(木)(展示替えのため)
観覧料	一般200円(150円)、高大生150円(100円) ※( )内は20名以上の団体料金 中学生以下・障害のある方と付添者一名無料
主催	第13回滋賀県施設合同企画展実行委員会 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (社会福祉法人グロー [GLOW] ～生きることが光になる～)
後援	滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力	一般社団法人近江八幡観光物産協会、NPO法人しみんふくし滋賀
助成	障害者の芸術活動支援モデル事業(厚生労働省補助事業)
出展施設	[前期] あそしあ、伊香立の杜 木輝、おうみ作業所、工房和楽、滋賀県立近江学園、滋賀県立三雲養護学校、滋賀県立八日市養護学校、社会就労センターあおぞら、ステップアップ21、にっこり作業所、彦根学園、ふくらの森、みどり園、やまなみ工房 [後期] アトリエひこうきぐも、大津支援センター(さくらはうす)、救護施設ひのたに園、湖北まこも、しあわせ作業所、滋賀県立信楽学園、滋賀県立野洲養護学校、信楽青年寮、障害者支援事業所いきいき、杉山寮、能登川作業所、バンバン
協力施設	さつき作業所、蛍の里
アドバイザー	アサダワタル(日常編集家) 中野裕介(美術家・パラモデル)

**【関連イベント】** ※全て要予約、参加費は観覧料のみ1. オープニングイベント

作者と一緒に展覧会の開催をお祝いしませんか？施設職員や作者によるギャラリートークで、作品の制作背景や作者の思いに触れていきます。

【前期】日時：2016年12月3日（土）13:30～15:00

【後期】日時：2017年1月14日（土）13:30～15:00

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

参加費：観覧料のみ

定員：20名（要予約）



※昨年度の様子

2. 目の見えない人との作品鑑賞プログラム 「作品を言葉にして、手で見て、鑑賞しよう」

目が見えない人、見えにくい人、見える人が一緒に、言葉や感触を通して作品を鑑賞していくと、自分では観えなかったものが観えてきます。レクチャーを受けたあと、グループに分かれて鑑賞していきます。

日時：2016年12月10日（土）13:30～16:00

会場：奥村家住宅（近江八幡市永原町上8）

講師：三浦弘子氏（滋賀県立陶芸の森専門学芸員）

光島貴之氏（美術家、ミュージアム・アクセス・ビュースタッフ）

参加費：観覧料のみ

定員：20名（要予約）

**■三浦弘子 プロフィール**

滋賀県生まれ。1991年より滋賀県立陶芸の森の学芸員。おもに国内外の現代陶芸の展覧会を担当し、2015年「土・祈り・イマジネーション…岡本太郎の言葉とともに展」で縄文土器や民俗芸術、障害をもつ人たちや芸術家、陶芸家たちによる陶芸などを併せて紹介する展覧会を企画。同館にて“つちっこプログラム”を担当する。

**■光島貴之**

1954年京都生まれ。10歳の頃に失明する。80年大谷大学哲学科卒業。82年鍼灸院開業。92年から粘土による造形活動を始め、95年よりレトラライン（製図用テープ）とカッティングシートを用いる独自のスタイルで「触る絵画」の制作を始める。98年、「'98アートパラリンピック長野」大賞・銀賞を受賞する。その他、展覧会・個展、ワークショップ講師など多数。

◎ミュージアム・アクセス・ビューとは・・・（HP：[www.nextftp.com/museum-access-view/](http://www.nextftp.com/museum-access-view/)より転載）

目の見えない人、見えにくい人とともに、気軽にアートを楽しむグループです。

ビューでは言葉による鑑賞ツアーを実施することで、一人でも多くの見えない人が、美術に興味を持てる機会を作ります。また、言葉による鑑賞は、見える人にも、新しい鑑賞のあり方を提案します。

### 3. 制作体験 「徳山さんとあの日の思い出をかたちにしよう」

前期出展者の徳山彰さんは、目の見えていた頃の思い出をモチーフに作品をつくられます。あなたの記憶と触覚をたよりに、目隠しをして作ると、どんな粘土作品ができあがるでしょう。徳山さんと一緒に体験していきます。

日 時：2016年12月17日（土）13:30～15:00

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定 員：10名

### 4. 施設職員、美術家、学芸員による座談会「障害のある人の作品と向き合うということ」

本展の展示を行った施設職員と、過去に障害者の作品とコラボレーション展示をした椎原氏、「生命の徴 滋賀とアール・ブリュット」展を行った渡辺氏で「つくること」「展示すること」「そこから感じること」について語り合います。

日 時：2017年1月21日（土）13:30～15:00

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

話し手：出展施設の職員、椎原保氏（美術家、甲南大学非常勤講師）、渡辺亜由美氏（滋賀県立近代美術館学芸員）

定 員：20名

#### ■椎原保 プロフィール

1952年大阪府池田市生まれ。京都市立芸術大学卒業。1985年「メタファーとシンボル展」、(東京国立近代美術館、国立国際美術館)、1988年ACCのグラントにてアメリカ渡航、2008年「時の風景」(京都芸術センター)。甲南大学非常勤講師。

#### ■渡辺亜由美 プロフィール

1984年千葉県出身。東北大学文学部卒（美学・西洋美術史研究室）、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了（西洋美術史研究室）。2014年より滋賀県立近代美術館学芸員。『生命の徴-滋賀と「アール・ブリュット」』展(2015年)を企画。

### 5. 常設ワークショップ ※予約なしでご参加いただけます。

会期中、出展者の山崎菜那さん（糸でシャツを縫う作品）、と川東悦子さん（丸いステッカーとマスキングテープでコラージュした作品）の制作を追体験するようなワークショップを会場内で開催しています。

※参考画像は作品紹介ページをご覧ください。

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

## [前期]作家紹介（一部）



「カエル」

制作年：2015年

素材：陶土、釉薬

H70×W140×D30mm

植松 遼 Uematsu Ryo

1999年生まれ

図鑑を見ることが大好きだ。海洋危険生物が興味の中心。触れると怪我をする強さに心が惹かれる。気の向かない活動では、水遊びや音楽鑑賞、図鑑を見たり、紙や机に絵を描く。作業学習の陶芸の時間や、美術の授業の時間に動物を作る時、いつもはよく話をするのに、作っている間は何も言わず集中し、黙々とイメージする動物を形にしていく。納得できない時は、調整のしすぎで仕上げる前につぶれることもあるが、とことん首や手足の動きを考えて仕上げる。細かな爪や耳の穴まで作り上げる。色は、釉薬を適当に選ぶこともあるが、気持ちのがのると筆を使って丁寧に塗り仕上げることもある。（馬場功/八日市養護学校）



「黒電話」

制作年不詳

素材：粘土、釉薬

H70×W60×D90mm

徳山 彰 Tokuyama Akira

1939年生まれ

彼は、目の見えていた頃の記憶を頼りに作品を作っている。乗り物や、家具、楽器等、自分で何を作るのか考え、日々の作品作りに取り組んでいる。制作中は、職員や他の利用者と最近あった出来事など、日常の会話をしながら作業している。のんびり穏やかに作業しており、平和な空気を感じる。それでいて、作品に関しては細かい部分にこだわり、器用にこなしている。

多くの人に見てもらいたいと希望を持っているので、今後も人を魅了するような作品を作って頂きたい。

（西川洋平/彦根学園）

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

## [前期]作家紹介（一部）



「おしゃれなシャツ」

制作年：2015年

素材：綿シャツ、綿糸、シルク糸

H760×W460

山崎 菜那 Yamazaki Nana

※常設ワークショップ作品

1994年生まれ

彼女の刺しゅうの対象は、布、シャツ、ズボン等様々である。縫いの対象と糸の色を決めると、後はただひたすらに、手の動くまま、心の赴くままに縫っていく。何かを作るというよりは、日々『縫う』という行為自体に没頭し、縫うことに対し楽しみを覚えているようである。糸の塊から数本勢いよく引き抜き、大きめの玉留めを作ってはひと針縫い、すぐに鋏（ルビ：はさみ）で切る。その為一本一本の縫い目は引っ張るとすぐに抜けてしまう様であるが、隙間なく幾重にも縫い込んでいく過程で糸と糸が複雑に絡まり合い、重なり合い、布地に不思議な模様を生み出している。

（牧原里佳/やまなみ工房）



「銭形平次の十手」

制作年：2016年

素材：紙、セロテープ、紐

H470×W45×D20mm

山田 元樹 Yamada Motoki

1987年生まれ

十手を紙でつくっている。セロテープでペタペタと何枚も重ねていき、できあがった十手は、固く頑丈なものになっている。漫才のような会話になったとき、彼から受ける十手によるツッコミの痛さは全国水準を少し上回るものになっており、しかしハリセンよりは心地よい。彼の周りでは、今後新たなツッコミの道具として見直される動きがある。彼はときおり銭形になりきっている。「明神下の銭形平次、めいどの土産にこの十手でめしとってやる」

（高森康介/ふくらの森）

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

## [後期]作家紹介（一部）



無題

制作年：2016年

素材：画用紙、クレヨン、シール

H550×W790mm

 川東 悦子 Kawahigashi Etsuko ※常設ワークショップ作品

1946年生まれ

親戚の子どもが書き取りの勉強をしている姿を見たことで、彼女は描く事を“勉強する”という言葉で表現するようになり、○を沢山描く面白さに目覚めていく。当初は、鉛筆で○を沢山描くことで納得していたが、最近になり好きな赤色のクレヨンを使い画面いっぱい力強く色を重ねていくという新たな技法が加わった。そして、更に赤の画面の上に様々な色のシールやマスキングテープを貼ることで、キャンバスは増々にぎやかさを増していった。作品が仕上がることに喜びを感じ、「また勉強するね」と、創作への意欲を覗かせる。

(澤井勇人/ひのたに園)



「お地藏さん2」

制作年：2016年

素材：ビーズ粘土

H100×W80×D90mm

周防 美希 Suo Miki

1997年生まれ

旧八幡郵便局の元局長室で開かれている教室に月2回通い、作品づくりを楽しむ。

ヴォーリス建築の空間に流れる穏やかな時間のなか、彼女は色々な画材とふれあいながら彼女にしか創り出せないであろう感性溢れる作品を生み出してきた。

今回の作品も、いつも通り創作を楽しむ中から創り出された。極小の発砲ビーズと糊粘土が混合された「ビーズ粘土」11色を混色し石仏の質感を表現。幼い頃より常々拝んできた彼女の守り神とされる石仏を粘土で創りあげた。丁寧に混色された粘土と原色のままの粘土との融合が彼女の感性であり、こだわりだ。

(塚本智映/アトリエひこうきぐも)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[後期]作家紹介（一部）

# 長塩途桜

影云垂琢琴聖聯豆豊吞  
 而憂函硬碑砲酉酢酌看  
 麗丙互碓礁確酬醜醜醜  
 瓦可否硫碗破酪酪酸段  
 歪盃爾礪磁砂醇醉醬温  
 雲晋壺硝磯礎雨靈雲衝  
 吾至夏碎碧磐需雪翠峠

「高速道路フォント」

制作年：2013年

鈴木 恵太 Suzumura Keita

1997年生まれ

高速道路の看板に使用される文字。地名が記された部分のフォントに興味を引かれた彼は、パソコンにこのフォントがないことをきっかけに、エクセル上で図形を変化させながら一つ一つの文字を創り上げていった。

全ての文字を完成させるのに、養護学校時代に約1年の時間を要した。決して今まで誰にも見せようとせず、家族でさえこの作品を目にしたことはなかった。

今回の展示を機に、本人と相談し、初めて公開するに至った作品である。本邦初公開の恵太フォントを楽しんで頂きたい。

(百々隆久/しあわせ作業所)



無題

制作年：2016年

素材：キャンバス、水彩絵の具

H240×W330mm

山田 淳 Yamada Atsushi

1999年生まれ

高等部の3年生で絵を描くことが好き。普段から学校での空き時間などにはよく、駅で集めたチラシの裏にカラーペンで好きな絵を描いている。ユニバーサルスタジオジャパンや「おかあさんといっしょ」のショーに行くと、その会場を上から見た配置図が頭に入り、ステージや客席を線で描くことも好きである。

2年生から美術部に入部したが、部活でもチラシに描いていた。しかし、3年生になると、1年の見通しを持つことができ自分からキャンバスを手にすることができている。今では大きな作品にも挑戦していて、とても意欲が高い。作品は「おかあさんといっしょ」のロゴをモチーフにしたものが多い。

(松尾芽泉/野洲養護学校)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。



# 第13回滋賀県施設合同企画展

## 広報用画像の使用申込書

本展の広報用画像を8点ご用意しております。作家紹介の画像をご覧ください。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名（①②④⑤⑥⑧大西暢夫 or Onishi Nobuo ※③は画像提供：やまなみ工房 ※⑦はクレジットなし）を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送り下さい。

媒体名：『 \_\_\_\_\_ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

種別： ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日： \_\_\_\_\_

御社名： \_\_\_\_\_

ご担当者名： \_\_\_\_\_

Eメールアドレス： \_\_\_\_\_

@ \_\_\_\_\_

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所： \_\_\_\_\_

お電話番号： \_\_\_\_\_

FAX： \_\_\_\_\_

ご希望の図版番号に○をおつけください。

[前期]

① 植松 遼「カエル」

② 徳山 彰「黒電話」

③ 山崎 菜那「おしゃれなシャツ」

④ 山田 元樹「銭形平次の十手」

[後期]

⑤ 川東 悦子 無題

⑥ 周防 美希「お地蔵さん2」

⑦ 鈴木 恵太「高速道路フォント」※撮影者クレジットなし

⑧ 山田 淳 無題

プレゼント用ご招待券をご希望の場合は✓をおつけいただき、枚数をご記入ください（10枚まで）（ 枚）

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第13回滋賀県施設合同企画展事務局

（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）



広報担当 / 山田、渡邊

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp